



初めてのプラネタリウム

私の初めてのプラネタリウムは、一生忘れられないものでした。

プラネタリウムの補助スタッフになるには、自動車の運転免許のように、練習をたくさんして、学芸員の方に見極めをしていただき、さらに卒業検定で合格をする必要があります。

私も、見慣れない大きな機械たち、いろいろな操作の役割を少しずつ覚える傍ら、解説もたくさん練習して、見極めの日を迎えたのです。

見極めの日、いつものように大学の講義を終えて、プラネタリウムに向かいます。ですが、心臓ばくばく、いつもと景色が違うようにも見えます。そして着いたら練習そこそこ、先輩補助スタッフの方の回を見学し、昨日練習した時と微妙に違う星の位置を確認します。お客さんは楽しそうですが、私はそれどころではありません。急に自分に自信がなくなっていました。そうこうしていると、ついに館の方に見て頂く時間となりました。私の初めてのお客様です。もう心臓ははちきれそう、口の中はからからです。そうして始まるといつものことができないのです。今までしたことのないミスを連発し、結局デビュー日決定はならず。学芸員の方々は、お客さんに楽しんでもらうことを第一に、楽しみながらもきちんとダメなときはダメと言って下さいます。ですが、やっぱり練習通りにできなかった自分がとても悔しい。終わった後は、泣きそうなのをこらえて必死で練習します。学芸員の方からたくさん励ましの言葉をいただき、先輩も業務が終わっているのに残って見てくださって、アドバイスをいただき、何度も何度も、練習しました。あがり症の自分が情けなくて涙が出そうなのを、唇をかんでこらえ、練習しました。しかし、そんなときでもプラネタリウムの満天の星空はきらきら光っていて、それを見てわくわくする自分がいるのです。小さいころに土星の輪っかを見て以来、私は星が好きなんだ、と改めて感じ、また学芸員の方や先輩方の優しい言葉が、元気づけてくれました。

そうして迎えた次の卒業検定。もう怖いものなした、という気持ちで大股でプラネタリウムに向かいます。そんなことを言いながらも口はからからです。無我夢中で、なんとか納得のいく解説



初投影の様子



練習中の1コマ

をすることができました。学芸員の方に「ずいぶんうまくなったね」と笑顔で言っていただけたときには、嬉しくて口の端がゆるみっぱなしです。結果は、合格！デビューの日も決まり、帰り道はスキップでした。

ついにデビュー当日の5月1日。ホームページ、プラネタリウムのボードを見ると自分の名前と顔写真。もち

ろん携帯のカメラにおさめます。お仕事用のオレンジ色のベストは着る必要のない時もうきうきと着ます。館内の方に「今日はよろしくお願ひします！」とあいさつをして、準備はばっちり。デビュー戦に挑みました。夕焼けが西の空をオレンジ色に染めて、星空のお散歩がはじまります。満天の星空をずっとひとりで見ていたのに今はみんなで見ています。いつもの何倍も星がきれいに見える気がして、嬉しくて仕方ありませんでした。何度も繰り返した練習を、ひとつひとつ丁寧に、大好きな星座たちを紹介していきます。後ろでは学芸員の方が見守って下さり、そっと背中をおしてくださいました。そうして無事、プラネタリウムホールが朝を迎えました。「最後まで、ありがとうございます。」と言って最後の操作を終え、顔を上げると、拍手がきこえてきました。そしてはっと我に返りました。体中が火照ります。ほっとしているようなときどきしているような、言葉にできない感動と、デビューしたのだという実感があとからきました。一生忘れられない、素敵な瞬間でした。

プラネタリウムは、大好きな星空と、大好きな職員さんがいる、素敵な宇宙です。お客様にも、そんな素敵な宇宙を感じてもらえるような解説員を目指して日々、がんばっていきたく思います。そしてプラネタリウムを出て、夜に空を見上げて、「今日なんかめっちゃ星綺麗なあ」って思っただけの方がいれば、それは私の夢が叶う瞬間だと思っています。

…なんて、大きなことを言っていますが、言葉に詰まったり、操作のミスをしたり、この言い方が分かりやすいかな？と考えたり、見に来てくれた友人・家族にまでアドバイスを求めたり…と、毎回の投影が、地道な試行錯誤と反省の繰り返しです。つたないところもまだまだありますが、少しでも素敵な宇宙を感じに、プラネタリウムにお越しくださいましたら嬉しいです。

どうぞ、よろしくお願ひします！

竹中 萌美(学芸員補助スタッフ)